

(説明)

「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」とは、いわゆる競争的研究資金制度の1つです。

本事業については、今年度から、緊急に調査研究の必要が生じた場合、年度途中からでも研究を開始できる「緊急課題即応型調査研究」を創設しました。

当該タイプについては、現在3課題を実施中ですが、今般、新たに以下の2課題を開始します。

1 「砂糖とソルビトール等との混合品の分離技術の開発に向けた調査研究」

(研究機関：(株)富士経済ほか2機関)

砂糖とソルビトール(甘味料等として使用される糖アルコールの一種)等との混合品である加糖調製品は、砂糖よりも関税率が低いことから砂糖の代替としての輸入が増加し、砂糖の原料であるてん菜・さとうきびの生産者や国内産糖企業の経営安定を図る糖価調整制度の安定的運用への影響が懸念されています。

この対策として、輸入加糖調製品を砂糖とその他のものに分離し、それぞれについて関税等を賦課する措置が考えられます。

このため、加糖調製品の分離技術の開発に向けた調査研究を行います。

2 「スギヒラタケの生理・生態特性と含有物質の関連性の解明」

(研究機関：(独)森林総合研究所ほか1機関)

平成16年に東北、北陸地方等で急性脳症の事案が多数発生し、この多くがスギヒラタケ摂取後に発症したとの報告がなされました。このため、厚生労働省を中心に、発症事例研究や発症機序解明等が行われてきましたが、現在もその因果関係の詳細は不明です。

原因究明に向けては、発症事例からの研究のみならず、スギヒラタケの生理・生態面からの研究も同時に行う必要があることから、今回、スギヒラタケの発生地域や気象条件等による生理学的、生態学的特性等の違いを解明し、さらに含有成分分析等を行うことにより急性脳症発症と発生地域条件や気象条件等との関係を特定します。

